

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 重本 絵実

論 文 題 目

Increase of eosinophil in peritoneal dialysate during induction of peritoneal dialysis

(腹膜透析排液中の好酸球数は腹膜透析治療導入期において増加する)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委員

葛谷 雅文



名古屋大学教授

委員

後藤 百乃



名古屋大学教授

委員

長谷川 好規



名古屋大学教授

指導教授

丸山 一



論文審査の結果の要旨

今回、腹膜透析(PD)治療導入期における排液中の好酸球数の上昇について検討した。得られた検体の臨床的背景を解析すると、PDカテーテルを挿入する時期が好酸球数上昇に関わっていることが分かった。また、アナフィラトキシンであるC3aは補体活性化産物であり、アレルギー反応においては好酸球の局所への遊走と集積に関わっているという報告があるため、PD排液中のC3a濃度を同時に測定したところ、排液中の好酸球数とC3a濃度に相関関係が見られた。これまで比較的稀なPD導入期の合併症を考えていたPD関連好酸球性腹膜炎であるが、実際にPD導入期の排液中に存在する好酸球数を実際に測定することにより、多くの症例でPD排液中の好酸球数の増加を観察することが出来た。PDカテーテル挿入の時期とアナフィラトキシンであるC3aが腹膜透析導入期の排液中の好酸球数上昇に関与しており、補体の活性化が腹膜透析導入期の好酸球性腹膜炎の発症に寄与している可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

- これまで報告の少なかったPD関連好酸球性腹膜炎であるが、実際にPD導入期の排液中好酸球数を測定したところ、多くの症例で好酸球数の上昇を確認できた。無症候性のPD関連好酸球性腹膜炎は予想以上に多く存在するのではないかと考えている。
- PD関連好酸球性腹膜炎を契機にEPS(被囊性腹膜硬化症)に移行し、PD治療中止となった報告も過去にはあり、重症症例の報告はないものの、臨床的には重要視されるべき疾患と考える。PDカテーテルの挿入時期がPD関連好酸球性腹膜炎の発症に大きく関わることがわかり、どのような患者にPD関連好酸球性腹膜炎が発症しやすいかを予測できる可能性が示唆された。
- C3a濃度と好酸球数との関連が見られたことからも、アレルギー反応がPD関連好酸球性腹膜炎の発症原因であるとのこれまでの報告とは矛盾しない。PD治療においてどの物質が腹腔内のアレルギー反応を惹起させたのかを今後議論する上で重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号	氏 名	重本 純実
試験担当者	主査 萩原雅文 副査 ₁ 後藤百合 副査 ₂ 長谷川好規 副査 ₃	重本 純実	指導教授 佐山彰一

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 腹膜透析関連好酸球性腹膜炎は予想以上に多く存在すること
2. 腹膜透析関連好酸球性腹膜炎の臨床的重要性
3. 腹膜透析関連好酸球性腹膜炎発症にはアレルギー反応が寄与している

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腎臓内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。